

第2学年 国語科学習指導案

中学校

指導教官
指導者

1. 日時 令和4年6月29日(水) 第5時限(13:30~14:20)
2. 場所 第2学年1組教室
3. 学年・組 第2学年1組(33名)
4. 単元名 「ものの見方・感性を養う」
教材名 「短歌の世界」 「短歌十首」(三省堂)

5. 単元の目標

○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識・技能】(2)ア

○観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。

【思考力・判断力・表現力】C(1)エ

○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【思考力・判断力・表現力】C(1)オ

○短歌を鑑賞し、どのようなところに魅力があるのかについて考えたことを進んで伝えようとしている。

【学びに向かう力・人間性等】

○詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことを伝え合ったりすることができる。

【言語活動】

6. 教材観

本教材は、前半の「短歌の世界」で短歌の特徴や技巧に着目して読む鑑賞の在り方を学び、これらを生かして「短歌十首」を読み進めていく。わずか三十一音という厳選された言葉から、描かれている情景や心情を自由に想像して味わう楽しさや、「五・七・五・七・七」を声に出して読むことで、短歌特有のリズムを楽しむのに適した教材である。十二人の歌人の作品に触れ、それぞれの言葉や表現の工夫・効果にも着目しながら読むことで、作者のものの見方や感じ方の豊かさを味わい、自らの生活や経験と結びつけ感性を養うことで、次の単元の短歌の創作の学習へとつなげていく。

7. 生徒観

本学級は、男子19名、女子14名で、自身の考えをしっかりと書けている生徒も多い。積極的に手を挙げて発表する生徒は少ないが、グループワークなどでしっかりと交流できている。事前のアンケートで「海恋し 潮の遠鳴り かぞへては 少女となりし 父母の家」の種類を聞いたところ、正解の「短歌」を答えた生徒は半数程度であり、短歌の特徴であるリズムを意識できていない生徒もいることがわかった。しかし、比喩や体言止め、倒置法などの表現技法については、これまでの詩の学習等を通して定着してきている。

8. 指導観

短歌の特徴であるリズムを意識させるためにも、音読を取り入れる。短歌を読み進めていくときは、それぞれの短歌を注釈的に読み進めるのではなく、教科書p69の「読み方を学ぼう」にあるように、

想像して読むという方法を身に着けさせる。そして、短歌からわかること（5W1H）を基に、自由に想像を膨らませて情景や心情を思い浮かべ、味わうことができるようにしていく。その際、表現技法の効果や作者の感動の中心がどこに現れているのかにも意識を向けさせていく。

また、多様な感じ方・見方をもとに、自身の考えを深めていくために、グループや学級全体での交流も多く取り入れていく。最後に鑑賞文を書く活動を設定している。なぜその短歌を選んだのか、理由を見つけれない生徒には比較の観点を提示し、他の短歌と比べさせ、それぞれの言葉や表現技法がどのような役割を果たしていたのかについて確認できるように、個別の対応をしていく。

9. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア ・短歌のリズムや表現技法など作品の特徴を理解して音読をし、短歌を味わおうとしている。(3)ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、構成や表現の効果について考えている。C(1)エ ・「読むこと」において、短歌を読んで、リズムや表現技法などの特徴を理解し、考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めている。C(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌を読み、どのようなところに魅力があるのかについて考えたことを進んで伝えようとしている。

10. 指導計画 (全5時間)

時間	学習活動	評価規準
1	○短歌のリズムや表現技法、近代短歌のあゆみについて理解する。	
2 (本時)	○短歌を通して情景や心情を自由に想像し、短歌の特徴や鑑賞のポイントを捉える。	○短歌を通して情景や心情を想像し、知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり、深めたりしている。【思・判・表】C(1)オ
3	○短歌十首を句切れやリズムの調子を意識しながら音読する。 ○句切れや表現技法を確認し、作品を作った背景にあったものや作者について学ぶ。	○短歌のリズムや表現技法など作品の特徴を理解して音読をし、短歌を味わうことができる。【知識・技能】(3)ア ○具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。【知識・技能】(2)ア
4	○短歌十首のうち印象に残った短歌を一首選び、情景や心情をまとめる。 ○鑑賞文の書き方を確認する。	○短歌を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めている。【思・判・表】C(1)オ ○観点を明確にして、短歌を比較するなどし、構成や表現の効果について考えている。【思・判・表】C(1)エ

5	○印象に残った短歌を選び、どのようなところに魅力があるのかについて、鑑賞文にまとめ、考えを伝えあう。	○短歌を読み、どのようなところに魅力があるのかについて考えたことを進んで伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
---	--	---

1 1. 本時の学習目標

「情景や心情を通して短歌を自由に想像し、味わうことができる。」

1 2. 本時の展開

	学習活動	教師の活動・指導上の留意点	評価規準
導入	○本時の学習目標を確認する。	・本時の学習目標を提示することで、ゴールへの見通しを立てる。	
展開	<p>○「寒いね」と～の短歌を提示し、「いつ」「どこで」「誰と誰が」「何をしている」を想像し、グループで交流する。→何名かに考えを前に書いてもらう。</p> <p>○「短歌の世界」のp 6 1 L 9 頁までを読んで、短歌の特徴、作者の伝えたかったことを捉える。</p> <p>○観覧車～の短歌を提示し、一つ目と同様に情景や心情を想像して、交流する。</p> <p>○p 6 1 のL 1 1 から最後までを音読し、栗木京子の作品の技法について読み解き、鑑賞のポイントをまとめる。</p> <p>○短歌二首を音読する。</p>	<p>・グループや全体で意見を交流することで、同じ短歌からもいろいろな想像ができることを実感させる。</p> <p>・前時に短歌の基本事項は確認しているので、そこは線を引かせる程度にしておく。</p> <p>・自分たちが想像した内容にもいろいろあったように、短歌は読者が想像力を働かせ、自由にイメージを膨らませながら読むという楽しみがあることを確認する。</p> <p>・句切れや技法については前回の授業を振り返りながら、この短歌に当てはまるものを考えさせていく。</p> <p>・ただ自由に想像するだけでなく、技法の効果についても意識していくことが大切であると気づかせる。</p> <p>・五・七・五・七・七のリズムを意識しながら音読</p>	<p>○短歌を通して情景や心情を想像し、知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり、深めたりしている。【思・判・表】C (1) オ</p>

		するように伝える。	
まとめ	○短歌の楽しみ方を確認し、 次回は短歌十首を読んでいく ことを確認する。	・次回の活動を伝えることで、 スムーズに進めることができ るようにする。	

1.3. 板書計画

学習目標 情景や心情を通して短歌を自由に想像し、
味わうことができる。

反復

「寒いね」と話しかければ、「寒いね」と
答える人の／いるあたたかさ
体言止め

場面
恋の場面
伝えなかったこと
読者の心に、それぞれの「あたたかさ」

☆短歌の楽しみ方は、
作者の「想い」を読み解き、
読者が想像力をはたらかせて読むことにある。

観覧車／回れよ回れ／想ひ出は／
繰り返し

君には一日／我には一生
対比
体言止め

場面
「君」と「我」が遊園地でデートをしている場面
何を伝えなかった
相手と自分の感じ方の違い、温度差。

☆鑑賞のポイントは、対比や命令形、
繰り返しなどの表現の工夫にある。